

令和3年(2021年)10月27日  
山口県病虫害防除所

1 害虫名 : ネギハモグリバエ B 系統  
(学名 *Liriomyza chinensis* Kato)

2 発生作物名 : ネギ

3 特殊報の内容 新発生

#### 4 発生経過

(1) 確認年月日 : 令和3年9月7日

(2) 発生地域 : 県内全域

(3) 確認の経緯

令和3年9月7日、下関市のネギにおいてハモグリバエ類の食害による著しい無数の食害痕や葉の白化が認められた(図1、2)。その後、同様の被害が県内各所において確認された。この被害状況は従来のネギハモグリバエと異なり、他県で発生が認められているネギハモグリバエ別系統に類似していた。農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門に遺伝子解析を依頼したところ、従来の系統(以下A系統)とは異なる別系統(以下B系統)であることが明らかになった。

(4) 他県での発生状況

B系統の発生は、平成28年に京都府で初めて確認され、以降、茨城県、富山県、千葉県、長野県、埼玉県、新潟県、栃木県、三重県、滋賀県、大阪府、愛知県、東京都、佐賀県、岐阜県、鳥取県、兵庫県、岩手県、秋田県、福島県、鹿児島県、福岡県、山形県、宮城県、大分県及び青森県の26都府県において確認されている。

#### 5 本虫の特徴

(1) 被害の状況

B系統の初期の食害痕はA系統と同様に不規則な白線状であるが、B系統は1葉に複数の幼虫が内部に潜り込んで集中的に葉肉を食害する。そのため、食害が進展すると近接した食痕が合わさり、葉が白化する(図1、2)。

(2) 形態

成虫の体長は約2mm、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である。幼虫はうじ虫状で、成長すると体長約4mmに達する(図3)。蛹は体長約3mmの褐色、俵状である。形態によるA系統とB系統との識別は困難である。

(3) 生態

両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表または土中で蛹になる。

#### 6 防除対策

同様の被害を認めたらネギハモグリバエまたはハモグリバエ類に適用のある薬剤により、発生初期の防除を徹底する。

なお、薬剤抵抗性害虫出現防止のため、同一系統薬剤の連用を避ける。

被害葉及び収穫残渣は発生源となるので、ほ場に放置せず適切に処分する。



図1 被害葉（食害痕、白化）



図2 被害ほ場



図3 ネギハモグリバエB系統幼虫